添嶋　譲｜10 years after

記憶を消すことが、いまできるいちばんの慰めであることはわかっていました。
けれど、そのためには膨大なエネルギーが必要です。
最悪の場合、自分が動かなくなってしまうかもしれません。そうしたら少年のもとには戻れなくなってしまうことだってあるのです。

友達キットは考えます。どうしたらいいのか。
本当にそれでいいのか。
そうすることは彼女のためになるのか。
だけど。
腕の中でおびえ、泣きじゃくる彼女を見捨てるわけにはいきません。

『すぐに落ち着く』
友達キットは目を閉じて、スイッチを入れ、プログラムをいくつか走らせます。
あたりはぼうっと光に包まれます。

ゆっくりと、

時間が、

戻っていくようでした。

どのくらい時間がたったのでしょう。
どのくらいの時間が戻ったのでしょう。
友達キットは彼女の辛い記憶を消すために持っているすべての力を使いきりました。
微かなモーター音も聞こえません。
とうとう、動かなくなってしまったのです。
ほんの少しの暖かさを残して。

『友達キット (reprise)』

友達キットのことを覚えている奴はいるだろうか。
人間の形のコミュニケーションロボットで、人間と同じように名前をつけて、会話をしたり一緒に遊んだりできる、とても精巧なつくりの物だ。
もう何年も前に製造が中止になっていて、たしかほんの少し前に部品の供給が止まるかもしれないというニュースがネットに流れていたはずだ。それを見て同僚が「そんなもんもあったなぁ。懐かしい」と言っていたのを俺は覚えている。

モデルチェンジも何度かされた。でも俺の友達キットは初期型の年代物だ。部品のストックもそろそろヤバい。引っ越しのたびに処分の話が出る。そのたびに俺は全力で否定する。ヤツがいたからここまで来られたのだ。
ケイと名前をつけたときから。健やかなるときも、病めるときも。ひとりのときも、誰か
を好きなときも。
一人になると不安になることの多い自分には、ケイのいない毎日なんかありえなかった。

俺が友達キットを手に入れたのと同じころ、クラスにもうひとり、友達キットを手に入れたやつがいた。カナタの友達キットは、俺と同じのんちゃんという名前だった。
カナタものんちゃんとずっと一緒にいたが、あの大きな出来事のあと、のんちゃんは『友達が助けてと呼んでいる』と言い、家を出ていってしまった。
のんちゃんは俺やケイがいるから大丈夫と言った。
カナタはそれを信じることにしたのだ。

『dreariness』

ただいま
かぎを開けてひとり家に入る
冷蔵庫の音
閉めわすれたまどから入る風
今日もなにも言わないロボット
「ただいま。さみしくなかった？　ぼくがいるからもう大丈夫だからね」

そんなふうにだれも聞いてないようなこと言って

さみしいのはきっとぼくのほうだ
ともだちだってそんなにいるわけじゃないし
電車にのって学校に行ってるから
帰りにともだちの家に遊びに行って
とか　そんなことかんたんにはできないし

むずかしいな

ぺたりとロボットの横にすわって
冷たさがわかるようにくっついて
そっと手をつなぐ

「もし動けるようになったらいっしょに遊ぼうよ」
ほんの少しどこかが青く光ったような気がする
体温と同じになるくらいいっしょにいたら
おかあさんが帰ってくる前に宿題すませなきゃ

『re-boot』

ぴかり。ぴかり。
点滅するランプ
無音の空間

沈黙

いつまでここにいるつもりなのか

起きて
起きて

永い眠りから覚めるには
王子様のお迎えが必要なのです

なんてな

ぴかり。ぴかり。ぴかり。
ぴかり。
ぴかり。ぴかり。
ぴかり。

ドコニイテモ
ぴかり。ぴかり。
キミヲ
ワスレナイデ
イルヨ

「ダメ、なのか？」
「わからないよ」
わかんないけど。もしかしたら。
ぱちん。ふと思い立ったようにあのスイッチを入れてみました。

ぴか。点灯。
青白い光。

少しずつ
いろんなことが巻き戻って
のんちゃんが見てきたこととか

あの大きな出来事とか
助けることができたひとのこと
助けられなかったひとのこと
全てが青い光となって
僕たちを包んで

目が、開いた。

起動。

10 years after(**お試し版**)

第 15 **回文学フリマ　頒布作品　ブース** NO**．ウ-０６**
http://p.booklog.jp/book/59812

著者：**添嶋　譲**

著者プロフィール：http://p.booklog.jp/users/literary-ace/profile

感想はこちらのコメントへ
http://p.booklog.jp/book/59812

ブクログ本棚へ入れる
http://booklog.jp/item/3/59812

電子書籍プラットフォーム：**ブクログのパブー（**http://p.booklog.jp/**）**

運営会社：株式会社ブクログ